

電話のバリアフリー化発信

「手話フォン」明石に設置



新設された手話フォン。通話したい相手の番号を押すと、まずオペレーターにつながらず、明石市大明石町1丁目

「外出先で急な予約変更や問い合わせなどをしたくなっても、あきらめることが多かった。でも、これがあれば」。この日、手話フォンを試した明石ろうあ協会の木戸めぐみ事務局長は手話でそう語った後、満面の笑みを見せた。

テレビ電話でオペレーター通訳

聴覚障害の人が無料で利用できる公衆電話「手話フォン」が5日、明石市に設置された。テレビ電話で手話オペレーターとつなぎ、利用者の手話をオペレーターが同時通訳して通話相手に伝えるシステム。全国3例目で、関西では初登場という。

JR・山陽明石駅前ビルにある「あかし市民広場」に日本財団(東京)が設けた。財団によると、昨年12月、東京の羽田空港と、視覚障害者のための大学・筑波技術大(茨城)に設置したばかり。聴覚障害者が活用しているメールやファクスと比べ、例えば店の予約変更や宅配便の受け取りなどで、迅速なコミュニケーションが可能になる。米国や韓国など、世界各地で公共スペースへの設置が広がっているという。

靖乃・公益事業部長は「これらのサービスは本来、国や電話会社が進めるべきこと」と強調。「障害者施策などに積極的な明石から、電話のバリアフリー化へ向けた機運を発信してもらえたら」と話した。

(高松浩志)

聴覚障害者が手話を使って通話ができる公衆電話ボックス「手話フォン」が明石市大明石町1のあかし市民広場(パピオスあかし2階)に設置され、5日、記念式典が開かれた。国内では羽田空港(東京)、筑波技術大学(茨城)に続き3カ所目で、自治体が設置するのは全国で初めて。市内の聴覚障害者が早速、試していた。(吉本晃司)

国内3カ所目 市民広場に専用電話

いつでも手話で通話

手話フォンは、聴覚障害者がボックス内のモニターから相手先の電話番号を掛けると、テレビ電話を通してオペレーターが手話で同時通訳し、その音声を相手方に伝える。相手方からの話はオペレーターが、手話で通話者に伝える。

これまで聴覚障害者はファクスや電子メールで用件を伝えたり、手話通訳者を呼んで通話を代行してもらったりするなど、意思伝達に手間が掛かっていた。手話フォンでは、手話通訳者への依頼など事前の準備がなくても電話することが可能。設置を進めている日本財団の石井靖乃・公益事業部長は「急用でもすぐ相手先に連絡できる。家族らの手助けがなくても通話できる。精神的負担がなくなり、障害者に自立の感情も出てくる」という。設置費用約200万円と月々の通信費などは同財団が負担する。

式典で泉房穂市長は「社会が変われば聴覚障害者の暮らしも変わる。どんどん使ってもらいたい」と話した。

聴覚障害者ら活用「共生社会実現を」



本日は NIPPON VOICED

た、明石ろうあ協会の家根谷 敬一さん(73)は「大久保町松陰靖彦会長は「B-1クラブ」は「テレビの修理を頼むのり西日本大会では、人のつなに使ってみた。あつという間がりの大切さを実感した。手に、楽に会話できた」と喜んだ。手話フォンの設置が共生社会の実現につながればと話した。

午前8時から午後9時まで、無料で利用できる。

あかし市民広場に設置された手話フォンで通話する聴覚障害者(大明石町1)

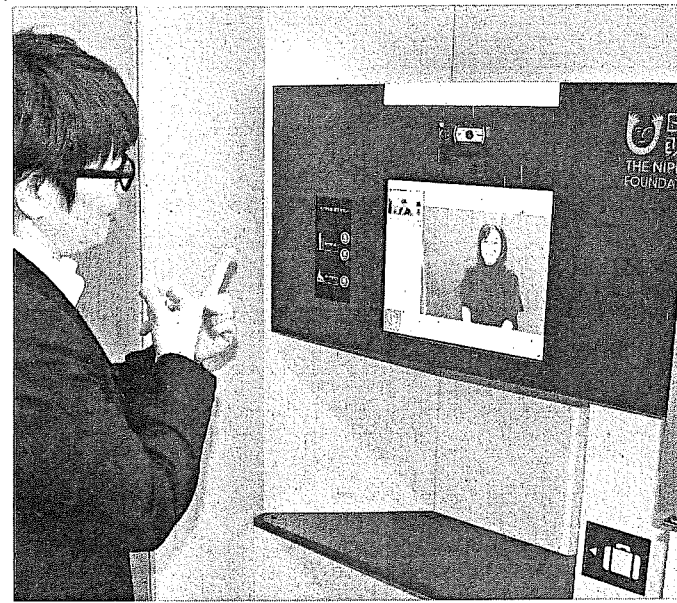
手話フォン使い方簡単

明石の施設で設置式典

聴覚障害者が手話で通話できる公衆電話ボックス「手話フォン」が5日、JR明石駅前(明石市)の複合施設「パピオスあかし」に設置され、式典が開かれた。事前登録不要で、午前8時～午後9時に無料で利用できる。昨年末の羽田空港(東京)、筑波技術大(茨城県つくば市)に続いて3カ所目の設置だが、自治体の協力による導入は全国で初めて。

聴覚障害者向け、利用無料

手話フォンは、日本財団が聴覚障害者向けに提供している電話リレーサービスを活用。聴覚障害者がボックス内のテレビ電話を操作



設置された手話フォンでオペレーターと話す利用者—明石市

し、画面に映ったオペレーターに手話で用件を伝える。オペレーターが相手先に電話し、得た情報を手話で利用者に伝える仕組み。

式典には福祉団体の関係者や聴覚障害者ら約100人が参加。明石市の泉房穂市長は手話を交えながら「手話でのコミュニケーションがいつでもできる社会に変われば、聴覚障害者の暮らしがもっと良くなる。手話フォンをどんどん使ってください」とあいさつした。

手話フォンを体験した明石ろうあ協会の木戸めぐみ事務局長は「思っていたより簡単だった。メールでは細かなことを伝えるのが大変なので、とても助かる」と話していた。

手話で安心 公衆電話 明石

画面のオペレーターを通じて手話で会話をする聴覚障害者向けの公衆電話ボックス「手話フォン」が5日、兵庫県明石市のJR明石駅前再開発ビル内に設置された。日本財団が羽田空港、筑波技術大(茨城県)に続き、西日本で初めて設置した。



取りし、聞き取った内容を手話で通訳する仕組み—写真。

手話フォンは、日本財団が東日本大震災を機に聴覚障害者向けに始めたスマートフォンなどの端末向けの電話リレーサービス(登録者国内約7000人)を活用。全国手話言語市区長会の事務局が明石市にあることなどから、今回の設置が決まった。毎日午前8時～午後9時、無料で利用できる。

さっそく利用した明石ろうあ協会の木戸めぐみ事務局長は「手話だと最も情報が伝えやすく、安心感がある。どこでも使えるよう、設置場所が増えてほしい」と話していた。

電話を掛けると、画面にオペレーターが登場。手話で用件を伝えると、オペレーターが通話先と音声でやり

【浜本年弘、写真も】

「手話フォン」明石に

耳の不自由な人が手話通訳者を介して利用できる公衆電話ボックス「手話フォン」が兵庫県明石市のJR明石駅前の複合ビルに設置され、5日、記念式典が開かれた。手話フォンの設置は羽田空港などに続き3カ所目で、関西では初めて。日本財団が通信費用を負担

テレビ電話を活用

し、午前8時から午後9時まで無料で利用できる。手話フォンは財団が2013年から提供している「電話リレーサービス」を活用。利用者は手話ができるオペレーターとテレビ電話でやりとりし、オペレーターが電話先の相手に内容を伝える。同

関西では初設置

市は聴覚障害者の支援に力を入れており、財団と市が協議して設置が決まった。

初めて手話フォンを試したという聴覚障害のある同市の藤井敬一さん(73)は「これまでのアクセスを通じたやりとりは時間がかかって大変だった。駅周辺の飲食店に予約の変更を伝える際などに使いたい」と歓迎していた。